

# 私の目標

桜城小学校

三年

山田

結心

「六年間リレー選手になる。」

わたしが小学校六年間の目標の一つに決めて  
た事だ。この夏の運動会のリレー選手の発表  
で、わたしの名前が呼ばれなかった。タイム  
は悪くなかった。家に帰ってお母さんの顔を  
見た時、泣くのをぐっところえた。

運動会のために、朝早く起きて、習い事の  
ない夜は、走る練習をした。

でも、練習を止めた。リレーが走れないな  
ら意味がないと思った。

ときょう走で走る順番が発表になった。わ  
たしはリレーのグループと走る事になった。

「リレー選手と走るなら一位は無理だ。」

そして先生は私にこう言った。

「ゆいさんはリレーのほ欠です。経験者だが  
ら当日言われても走れるでしょ。」

先生ひどい！と思った。リレーが走れるか分  
からないのにじゅんびをしておかなければい

けないからだ。

選手は昼休みに練習をする。わたしは今年初めて練習を見た。いつもは見られる方だった。集中しなくてバトンパスを失敗する人、髪<sup>カミ</sup>の毛を気にして走者が乗ってる事も気づかない人、だからおくれてまける。わたしはしっかりと集中してやってよ！みんなの代表なんだよ！

と、ライラした。もどつて来た男子がみんな真面目にやってくれない。

と泣いていた。

家に帰ると中、どうしたらバトンパスがスムーズに行くか考えていた。その時わたしははっとした。

わたしが一年生、二年生の時リレーの選手になつて、もしかしたらわたしのようによくやしい思いをして

リレー選手、しっかりとやってよ！

と思つていた人がいたかもしれない。

その日から、わたしは自し<sup>や</sup>練習をまた始

めた。リレーは走れなくても、ときよ  
 う走を  
 ちやんと走り切りたいと思っ  
 た。

運動会の日、お母さんに順位は  
 どうでもい  
 いよ。けがをしなかつたらいい。  
 ゴールでま  
 ってるからね。そう言われた。  
 リレーは走るき会はなかつた。  
 でも、ときよ う走は自し<sup>ッ</sup>練習  
 してきた事を  
 思い出して走<sup>ッ</sup>た。そして、  
 リレー選手の手  
 ームの中で、わたしはときよ  
 う走で一位をと  
 った。

練習してきた良かったと思っ  
 た。

当たり前のように選ばれてきた  
 選手から外  
 された事で、わたしは  
 なれなかつた人の気持ち<sup>ッ</sup>  
 を知ることが出来た。

クラスのリレーの男の子が言っ  
 てくれた。  
 やっぱりゆいちゃんだよ<sup>ッ</sup>。  
 うれしかった。

来年は一し<sup>ッ</sup>にリレー走ろう<sup>ッ</sup>。  
 わたしはそう答えた。